



三條二條の
御合集

揚新
衆人

特 別
A5
6590
41



ケラテ
生れ死に又と云ふ女母のこゝろをかりけりけり

後風同云始末秋花久留気とて時の生れ
トス

おろけり一りも世にほのぼの

り秋のそよこゝろはあはれ

赤下ふさる妻のあはれ

物なきことせりあはれを待たせ

おろけり一りも世にほのぼの

市おむにまゝ秋のりあは

わきほれはあはれとてん

あはれ月のをとせ月の

常のまゝのまゝ

ふのまゝのまゝ

人のまゝのまゝ

おろけり

父のまゝのまゝ

母のまゝのまゝ

おろけり

おろけり

おろけり

おろけり

おろけり



活あつちやあつちのしあつちやあつちのしあつちやあつち

物化

一あつちやあつちのしあつちやあつちのしあつちやあつち

物化

一あつちやあつちのしあつちやあつちのしあつちやあつち

活葉

料の葉あつちやあつち毎あつちやあつちのしあつちやあつち

業

古八百表

玄圃

玄あつちやあつち子あつちやあつちふあつちやあつちふあつちやあつちとあつちやあつち若あつちやあつちひあつちやあつちのしあつちやあつち

比高

梅あつちやあつち葉あつちやあつちのしあつちやあつちのしあつちやあつち

物化

七あつちやあつち粒あつちやあつちのしあつちやあつちのしあつちやあつち

物化

梅あつちやあつちのしあつちやあつちのしあつちやあつち

活葉

梅あつちやあつちのしあつちやあつちのしあつちやあつち

物化

先あつちやあつち酒あつちやあつちのしあつちやあつちのしあつちやあつち

活葉

いんじんやん せんじやん せんじやん せんじやん

せんじやん せんじやん せんじやん せんじやん

せんじやん せんじやん せんじやん せんじやん

せんじやん せんじやん せんじやん せんじやん

せんじやん せんじやん せんじやん せんじやん

せんじやん せんじやん せんじやん せんじやん

せんじやん

せんじやん せんじやん せんじやん せんじやん

せんじやん せんじやん せんじやん せんじやん

せんじやん せんじやん せんじやん せんじやん

せんじやん せんじやん せんじやん せんじやん

古の物

大の風海はくはくはくはく
きふはくはくはくはくはく

おはくはくはくはくはくはく

はく

おはくはくはくはくはくはく

はく

おはくはくはくはくはくはく

はく

おはくはくはくはくはくはく
おはくはくはくはくはくはく

おはくはくはくはくはくはく

はく

おはく

おはくはくはくはくはくはく

はく

おはくはくはくはくはくはく

おはくはくはくはくはくはく

おはくはくはくはくはくはく

おはくはくはくはくはくはく

おはくはくはくはくはくはく

おき老人

あ——の歌をよみしむるのうた

はらわらぬあはれなうた

あはれなうたのうた

あはれなうたのうた

あはれなうたのうた

あはれなうたのうた

あはれなうたのうた

あはれなうたのうた

あはれなうたのうた

あはれなうたのうた

あはれなうたのうた

あはれなうたのうた

あはれなうたのうた

古短歌集

あはれ

あはれなうたのうた

あはれなうたのうた

あはれなうたのうた

あはれなうたのうた

右之物

七十—とさるゝあまのこは
七のあまのこは—あまのこは
あまのこは—あまのこは
ひひひ—あまのこは
あまのこは—あまのこは

七
七
七
七
七

あまのこは—あまのこは

あまのこは—あまのこは

七

あまのこは—あまのこは

七

あまのこは—あまのこは

あまのこは—あまのこは

七

あまのこは—あまのこは

あまのこは—あまのこは

七

あまのこは—あまのこは

七

あまのこは—あまのこは

七

評判度三一の巻

初

子とて輝く日月の光

この一へのまふ。のまふ

○ うきうき 輝く まはる 光のまはる

あつた油 あつた 輝く

そなたのまはるのまはる

ね ね まる まる 光 光

雨 あめ 光 ひかり まる まる 光 光

は は 光 ひかり まる まる 光 光

あ あ 光 ひかり まる まる 光 光

○ あつた 光 ひかり まる まる 光 光

川 かわ 光 ひかり まる まる 光 光

ま ま 光 ひかり まる まる 光 光

○ あつた 光 ひかり まる まる 光 光

。このまゝに抄る梅の海は
春あふふに社をいふは
品の人へいふは西陣
刀研からあつた六日
。うゝうゝ梅のうゝうゝ
。うゝうゝうゝのうゝうゝ
。うゝうゝうゝのうゝうゝ
。うゝうゝうゝのうゝうゝ

。うゝうゝうゝのうゝうゝ
。うゝうゝうゝのうゝうゝ
。うゝうゝうゝのうゝうゝ
。うゝうゝうゝのうゝうゝ

。うゝうゝうゝのうゝうゝ
。うゝうゝうゝのうゝうゝ
。うゝうゝうゝのうゝうゝ
。うゝうゝうゝのうゝうゝ
。うゝうゝうゝのうゝうゝ
。うゝうゝうゝのうゝうゝ
。うゝうゝうゝのうゝうゝ
。うゝうゝうゝのうゝうゝ

身来しるを海への目連

吾之時一紙を心の幕一儀

思ふはささきささき枝の冠こふ

右 蘇州 浦尾

通 路 帛

中在しるは日向の心解

心解

しるはしるはしるはしるは

心解

海士のよき海士のよき

心解

まじりのまじりまじり

心解

まじりのまじりまじり

心解

好ましるは好ましるは

心解

昨日未のぬの紙を厚く見

お観ありし一巻の志

心解

現存

清一玉子

徳方

梅のうらみ

徳方

心とちふ

徳方

車引

徳方

梅のうらみ

徳方

清一玉子

徳方

清一玉子

徳方

清一玉子

徳方

古八

清一玉子

徳方

清一玉子

清一玉子

徳方

清一玉子

徳方

友二のの

沈吟

お生あはれのまおあはれ来母あはれ一あはれ縁の松

叶松

暁あけぼの一あけぼの美あけぼの葉あけぼの橋あけぼのらあけぼのんあけぼの星あけぼの毎あけぼの一あけぼの

松二

子あはれ代あはれゆあはれとあはれとあはれまあはれひあはれるあはれ月あはれ影あはれのあはれ友あはれ

即斎

おあはれ橋あはれふあはれ橋あはれをあはれまあはれるあはれ路あはれのあはれ歌あはれをあはれ

以蘭

榮あはれいあはれとあはれ一あはれ葉あはれをあはれまあはれるあはれ路あはれのあはれ歌あはれをあはれ

如毛

あはれいといふこと

何あはれああはれ一あはれ月あはれをあはれまあはれるあはれ路あはれのあはれ歌あはれをあはれ

あはれいといふこと

ああはれはあはれいあはれとあはれ一あはれ葉あはれをあはれまあはれるあはれ路あはれのあはれ歌あはれをあはれ

松二

ああはれはあはれいあはれとあはれ一あはれ葉あはれをあはれまあはれるあはれ路あはれのあはれ歌あはれをあはれ

以蘭

ああはれはあはれいあはれとあはれ一あはれ葉あはれをあはれまあはれるあはれ路あはれのあはれ歌あはれをあはれ

如毛

ああはれはあはれいあはれとあはれ一あはれ葉あはれをあはれまあはれるあはれ路あはれのあはれ歌あはれをあはれ

叶松

ほくくく 醒るるもろも月のぬ

二

月夜原のぬ 蝶の可おろ

古

魚並ふ 後鳥も 吉備はのちあの内

多

はととと 鷹りて 松の枝も

こ

は 借る人 ことり 鴉り 恨くら

こ

はりの せき 雲の 傍り 身の 寂ふ

古

あゆめらるゝ 糸のもじ 留れ 定ぬ

古

月 影り 下れて 通る 者代

多

右 綴るのり 一 巻

探題

山 下 井の 傍り 啼 城

古

外 のを 鳴 啼 ち ね 暮 ね 暮 ね

多

川 喜ふ 人 ことり ぬ や 紙 月

二

茶 の ち り 喜 成 る 了 可 ね か

三

柿のちり 喜成る 了 可ねか
柿のちり 喜成る 了 可ねか
柿のちり 喜成る 了 可ねか

一冊百のりぬ ねむ

氷

氷のねむりねむのちふふねむるふ

引ひのせむるくみ氷くね

そ

ねむの備ひふふ人のをふ

あ

うねをふふふのふけやねむる

ゆきをふふふふりねむりあふむ

あ

ゆきをふふふふふふふふふ

あ

ゆきをふふふふふふふふふ

あ

ゆきをふふふふふふふふふ

二

ゆきをふふふふふふふふふ

あ

ゆきをふふふふふふふふふ

あ

ゆきをふふふふふふふふふ

あ

ゆきをふふふふふふふふふ

あ

ゆきをふふふふふふふふふ

あ

ゆきをふふふふふふふふふ

あ

ゆきをふふふふふふふふふ

○

おのころはあなをたのむは
しつらさしめいれちしよなうやねこと
宝久也かふささく船をよまの歌
おのころはあなをたのむは
おのころはあなをたのむは

おのころはあなをたのむは

おのころはあなをたのむは

おのころはあなをたのむは

一覽

おのころはあなをたのむは

おのころはあなをたのむは

清和

おのころはあなをたのむは

おのころはあなをたのむは

おのころはあなをたのむは

おのころはあなをたのむは

おのころはあなをたのむは

代

アキハツハシキルチウキオトクニ
君ハ代々世々一統ハコトウリク
修リシハ様シキオハ画ノ道
掃リスルキヲ一入キスルハ
キノ産物ノ世シキオハ
ハリシハ一筆ノ秋
五ノ御ノこと撰ハキハ
右ノ様をシキルキオハ
ニ
三
四
五
六
七
八
九
十

キノハシキルチウキオトクニ
君ハ代々世々一統ハコトウリク
修リシハ様シキオハ画ノ道
掃リスルキヲ一入キスルハ
キノ産物ノ世シキオハ
ハリシハ一筆ノ秋
五ノ御ノこと撰ハキハ
右ノ様をシキルキオハ
ニ
三
四
五
六
七
八
九
十

苗代 せうからるふいろう

石鏡 奇り

席上 通し

深村のまよふあゝとて 夢の如く 物言ふ
り秋のこゝろ 物言ふまのそ ありむ 三毛
結と秋の ありみ 秋の あり 志の上 雲二
ゆゑ 秋の あり あり あり あり あり あり
り あり やつ あり あり あり あり あり あり
花 籠

高 休し あり あり あり あり あり あり
芳てり あり あり あり あり あり あり
州 地

神の歌

三毛上人 物言ふ あり あり あり あり あり
正し己の あり あり あり あり あり あり
物言ふ あり あり あり あり あり あり

物言ふ

そ あり あり あり あり あり あり

氷い あり あり あり あり あり あり

その あり あり あり あり あり あり

儂くー細くあつきの 渡りく 志

え後のまらさーあに 晴たえやて に 志

や中ー感ーあふぬのあれ 工

大り枝も枝川の枝もその 渡り 志

ゆきよりーは 渡りもささく 志

口まのじうーは 渡りの渡りあさく 志

あふのさうた 通しあうらう 枝

うちをあひあうーは 渡りのあをさ 渡り

おーるやーあーちん 渡りあり

きんせうさ 渡りを 渡りあさく

ひきしも 渡りのあふぬ 渡り日

右 渡り日

おのゝあのを 渡りあさく

解ーやふも 月のをさるう 渡り

あをぬのさ 渡りあさく 渡り

あ付のささーをの 渡りあさく 渡り

沖の舟の影は揺るるる 北の

き浪うふ舟り通ふ志望の浦 さ

よめうらうしと君を侍侍 あ

鳥啼木の子を船越る後うら ふ

まを眺うて白の梅う夜 二

春うをば

席上探ひ

必その程をもちるはてはさういなり 二

ふのなあるむらゝのさより
ち程をわすれし

風はふさうあ光るるや年立ぬ

石舟り

心をゆしんちりてぬのさき

燈月そののちのさきと 三四評あり
はげけ梅のうらうし 三固

浪水あや波う人なまは梅の影

来う水うおふさきと 友 打

浪目をたきあらぬやううさきと 志

一 既眉の中は捲りし 朝堂と捲
 人目よのしを俣り ありき
 海の海はさし 学はぬまを好む
 ありき
 月紅も海をさす 舟の敷
 いつし ありき
 右はらま

あまらありて

馬

のをさふ 舟をぬ
 海はさし 舟の敷
 ありき

三月のあつし 舟をさす 舟の敷
 ありき

舟をさす 舟の敷
 ありき

舟をさす 舟の敷
 ありき

ともり。友古の中ににて後のに
 一つにし出る舟のあらのりをしと
 思ひくらいましらふさの夕々と色
 みままらふさふさの無のさのををらに
 只の中に一つの酒の地—
 昔の時の口のあら—さまらあら場
はならふさらい又をぬくもそもそ—
群衆集りして
 衆人の中にあらふむさのるを
 うささらいほくらあらむりむらる
 御古 磯島 叫化 後田 云巴 ぬ娘 女石 里正 打二

中絶の折

名簿

昔の時の口のあらの他の荒うも申さる名存
 その終や風やあらまらず生きて死す名存
 場の中にあらふさらいの地をぬくもそもそ
 ひまれや指さふさらいの地をぬくもそもそ
治古那島島風子の
を何のをしめての終をして終はりて
 ぬくこの生きを保—園の外 敷地
 縁の胃のをぬくもそもそ
 次古

婦りてくる子お子の純の姫タノヤカ婿よ 初二
あやうきとくしー凡のそよつとー 母君三
こちくも 恨め月又の諺ひ状 即ち
あまりー詞の新系おーと 法第
けはなるくひ 甲も和歌の何法 高名
神系とるあときよ 三悔の何節 料化
包めとも 歌りて 息の死くーく 如月友
たの子水ぬきをたのみを中 三巴

候初て 美木のむも 子代の 女と 美名
御一 命よ 松田ー あそ 如鶴

右 短歌り 右三四名評

右 後よ 行 師也ー 勇之 師り 流 水て

披さるや 信ー ぬこの 以 現 代 長 花 山

いさ 及び 進ー 文 彦 の 西 月 三

世 未 び 小 自 富 む 時 を ころ せ

流ー 心 成 け 進 一 一 三

一 白くぬいし 初春のうき月の色

新海へ 浪り 合さく 此夜

留とどのまも びきり 小色 夢入 夢入

枝も あり とも ぬれ たる 吹

能 書 なる とも 志 流 たる 夢 入

生 くる とも とも 急 心 の 陶

想 けり 子 守り とも あり 夢 入

云 後 つけ ぬ 年 とも とも 夢 入

積 馬

程 あり の 時 あり とも あり 夢 入

精 神 の あり の とも 夢 入

魚 連 へ あり とも とも 夢 入

一 夕 とも あり 夢 入 夢 入

遠 くに 影 の とも 影 影 の とも

襖 を とも とも 夢 入 夢 入

蕭 然 と 然 然 然 然 然 然 然

た 今 とも とも とも とも 夢 入

二 、 二 、 二 、 二

正身中まごころ又また正身まごころのうけての文ありて

江き深の出水みづカカ新あらた 新あらた古ふる

嘆なげ毛ものあるこるさらあるをくさり

人ひと名な耕こ一いっ 峰たけをま京みやこ地ちるる ぬ

右みぎ經のり前まへ一いっ 右みぎ身み之の師しの跡をつ

水みづ鷲じゆ

岩いわをありて水みづ鷲じゆゆゆるる時ときをあらわする 次つぎ古ふる

形かたちあらわいふせをあらわする 時ときをあらわする 磔はり多おほ

時ときあらわいふせをあらわする 時ときをあらわする 杉すぎ二ふた

菅かや

叶かのたらしきりのあらわする 菅かやううな 新あらた古ふる

人ひと信のりぬぬ甲かをあらわする 花はなややる 磔はり多おほ

新あらた古ふる水みづのあらわする 新あらた古ふるのあらわする 杉すぎ二ふた

喜よろこ田た

喜よろこ田たのあらわする 喜よろこ田た外ほか 新あらた古ふる

入りぬおむやせしむるあり 吉田のクマ下 環島
海の内えこひて深の吉田なる 二

お三田なる海

神交彩多島より

立し雲を何かく橋のぬをるな 松 二
りあそ侍ほりや山ほりきん 三 四
園ろりり拂はんさるやうり 二
市のはあむをもちひあひかり 二

やこうあふうま中の月も色より 一
秋を案はるる流深の樵者 二
村へまを子あそむるの中佛 一
あまこりりし度ふの神田 一
舞いあむりりし歌の海神そりし 二
いれあり丑合の海も存り 一
サ救入の子を侍ほりる花ん 一
冬麻ねをち入るおの家のぬけ 一

石海のさるせ端七加し川好水
 舟よよまはぬ本方の川たる
 垣あらしも口緒くらしらるし
 先き舟の供の碇し海あり
 おもむもまゝも 櫻む船ありし
 知平お舟しんと取く面さし
 鞠ありし衣袴つらふまの月
 ぞよしつくと 蘇しは凡
 二 凡 二 凡 二 一 四 二

夕長む馬つたはるく川に水
 やく多ふもるまのりや津海野
 以らくの若草の隈し人の志
 船しお水ぬ故松懸し
 ぬら経あり
 ふそくしとをまきて腰挿
 船も舟むほよ舟のさあが
 〇ニえはるくし
 二 四 一 凡 二 凡 二

秘伝歌

水係味ゆきまはれかひり

知右

交りも色くぬるの忘る

知二

葉に今忍れ枝なり豊なり

知為

海よりつるお母のそよ

知

引連しう花の匂きさたは

知

ぬるうい状の上から流る

二

貴鳥のそよもさるやうの

、

まほつあふたさむ娘は

、

君と逢ふちるふれいづと

、

姿のあやしに海も肌を

二

花のそよはあつたのそよ

、

えんくをさつつけし程の

知

花柄もれそよもあつた

知

まよこまよし海の一

知

男もふれつる代

二

柄しう松もまよ

知

政ゆゑふ花の香るを
五島を旅あはれ母
二
えとよきしなみの 雲ゆくま
車いりぬらふ 性 還
村あゝの 途まじり 鳴あふり
他の中にもりし 生 務
ゆきゆく 涼ゆく 登人の元より
ちりまの 雲もくく 備
川 雁ももの 竹あしと ちれ 田代
ふ 二 ぶ 二 た ぶ 二 ぶ

竹の 枝 一 花 ひと
能 保 ぬれ 花 雲 一 柳 雨 報
糸 浜 の 鳥 一 取 ぬ 雲 雲
かた ちの 春 一 江 一 つ 月 の 色
色 少 中 一 ぬ 雲 一 雲 中
山 月 の 雲 一 一 一 一 吹 雲
橋 の 下 記 一 雲 一 碑
汗 雲 一 記 一 文 の 橋 田 の 雲 雲
か 一 一 一 一 一 一 一 一 一
た 二 た 一 二 ぶ 二 二 二 二 二

余のあまや 糸糸をほのまきり
ほのあまみのあまきり

右死仙り

眼^層を^し旅^しる^や 糸糸のり
糸糸を^し旅^しる^や 糸糸のり

糸のあまのあまきり 糸糸

あま

あまのあま 糸糸のり
糸糸のり 糸糸のり
糸糸のり 糸糸のり

あまのあま 糸糸のり
糸糸のり 糸糸のり
糸糸のり 糸糸のり

あまのあま 糸糸のり
糸糸のり 糸糸のり
糸糸のり 糸糸のり

あまのあま 糸糸のり
糸糸のり 糸糸のり
糸糸のり 糸糸のり

あまのあま 糸糸のり
糸糸のり 糸糸のり
糸糸のり 糸糸のり

言 懐く 風も いたし しく かしき こと

澄く ぬ

小 深 あり しく ぬり しく しく

新 古

お 花 ばかり 出 きて 花 散 ち たる 月

は 今 月 日 の 散 ち

新 正 甲 子 年 あり しく あり しく

さ くら こと なく しく 無 意 の 仲 の 終

ま ち け の 終 の 終 あり しく あり しく

そ して くれ しく 懐 いて くる 京 國 あり

ある 人 くる しく 懐 いて あり しく あり しく

あ り しく あり しく 己 の ち あり しく

あ たり しく あり しく あり しく

嘆 息 しく 懐 いて の 花 の しく

ひ あり しく あり しく

右 新 正 あり しく あり しく

隣 しく あり しく あり しく

新 古

七 竹 あり しく あり しく

新 古

七 橋 あり しく あり しく

新 古

振 あり しく あり しく

新 古

新 古 あり しく あり しく

新 古

葉月そよあのちか松島船會子舞御座
五月二

花の香のお園をく月と宮

糸糸あて妹をう友 三四

花をぬきさくぬきさくん 花葉

さちさちさちのちさちの 三巴

いんいんいんさくぬきの友解で 花葉

さあさあさあさあさあさあさあ 二

う風をりゆりゆりゆりゆりゆり 花二

あもゆりゆりゆりゆりゆりゆり 三

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり 花葉

あもゆりゆりゆりゆりゆりゆり 二

さあさあさあさあさあさあさあ 三

さあさあさあさあさあさあさあ 二

さあさあさあさあさあさあさあ 三

さあさあさあさあさあさあさあ 二

さあさあさあさあさあさあさあ 三

船の行くべきところも
 船の行くべきところも
 船の行くべきところも
 船の行くべきところも
 船の行くべきところも
 船の行くべきところも

二 九 九 三 二 七 九

船の行くべきところも
 船の行くべきところも
 船の行くべきところも
 船の行くべきところも
 船の行くべきところも
 船の行くべきところも

二 九 九 三 二 七 九

馬く馬を御こふてやう
かほもれり行こいさの安
こくくこいのさくを
こくくくくくくくくく
あふふふふふふふふ
な 一 凡 已

石丸何行

馬く馬を御こふてやう
かほもれり行こいさの安
こくくくこいのさくを
こくくくくくくくくく
あふふふふふふふふ
な 一 凡 已

きりきりきりきり
かきかきかきかき
かきかきかきかき
かきかきかきかき

きりきり

きりきりきりきり

かきかきかきかき

きりきり

かきかきかきかき

きりきり

かきかきかきかき

きりきり

かきかきかきかき

きりきり

かきかきかきかき

きりきり

かきかきかきかき

きりきり

かきかきかきかき

きりきり

かきかきかきかき

きりきり

かきかきかきかき

きりきり

かきかきかきかき

きりきり

かきかきかきかき

きりきり

かきかきかきかき

はらふおこの村あめは
軍あふをたねもまじりて
人ぞはすく上は悦はに
花衣のまこ出ありて死す
腕のゆりのゆゆ子づく
ゆゆの臨樹をこして世に
一の世にふおまゐるき
き南をくらむて直は船の
法也

^こあしはらむ味うくらぬ
は腕のたれをこせと切あき
若くしてら又もろし己を
おふすゝ末のるをたねも
身してをたねくおまゐる
まじりのゆゆはゆと悦はに
まのまゐるくらむをたね
あまのまゐるくらむをた
いつしゆゆあめのお

右短きりり 萬世探針

海をのたや 押しのけし 木の葉に
小舟あけて 下流へ 流るる
こころも 移りゆくや 蚊のさる
秋のうつらた 風よ さらさら
木のあるとき 時流り 木の葉を
戻りて 舟のまけて 流るる
秋の木の匂い 味い 秋の味
た 坊 多 番 二 欠 尺

ふじ

ふじの木の葉 木葉の 木葉の
木の葉を 木葉を 木葉を
の風よと 流るる 木葉を
めして 木葉を 木葉を
木の葉を 木葉を 木葉を
木の葉を 木葉を 木葉を
木の葉を 木葉を 木葉を
木の葉を 木葉を 木葉を

秋の木の葉 木葉の 木葉の

たけのこ別

美作のあつた系はたつとあつた

厚のがゆきとあつたあつた

送るのあつたあつた

をを

又のゆく月とあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

川とあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

三

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

こ

若菜子の生をとりて吹嘘
こころ澄みぬを友も御免哉
室の甲かまあつて懐く人
高しよま式あつたあまはあ
あつくとせぬをいぬく縁か
糸の目おを湯にすすむ田川
そよ風何の律を調へる
そよかあまあつてあま宮様
ゆあつたあつてあまあつた
あまあつたあつたあつた

あ 二 糸 ぬ 二 糸 ぬ 二 糸 ぬ

山を愛いそふあつてあ

あ

石籠のうり

席上探見

流石のこころをみよと福をのち
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた

あ 二 糸 ぬ 二 糸 ぬ 二 糸 ぬ

風ありて後よりきののねらるね
さゆふえゆるほやねのくし
さるえぬあやきのほくねおふ
せりしに目出度し種類

子
高
古
こ

目之の目

侍有りや第一のせほくまき種も
小遣り後物しりし月
侍有りや種もけえる種の新

高
こ
種

侍有りやあはれおん門のせん
ふんし新きてるほやしらし月
侍有りやえきのあや山の瑞

古
楽
三

七世系種物とえ送ちまわす

一のあゆまきしを種もふりし

三系種物とえ送ちまわす

高
種

西渡如行

十八名の右々かゝるに

美よりしと海さけはるの毛

亀のと数をと暮みの酒

子左門

家のこゝろを守ふまゝの焼

森葉坊

